

届く支援と

感謝の思い

東日本大震災



震災で被災した宮城県気仙沼市の知的障害者更生施設「第二高松園」に寄贈した福祉車両の前で。右から富岡甘楽歯科医師会の茂木忠泰専務理事、萩原吉則副会長、峯岸会長、事務局の職員として常勤する歯科衛生士の入山氏、中野友美氏、松本氏



第二高松園では入所者に口腔ケアを実施。職員が口腔ケアの方法を学ぶため、熱心な話を聞いていた

気仙沼に福祉車を寄贈

群馬県富岡甘楽歯

福祉車両を本当に必要とするところで活用してほしい。

群馬県の富岡甘楽歯科医師会（峯岸博行会長）は、東日本大震災による津波で福祉車両を流失してしまつた宮城県気仙沼市にある知的障害者更生施設「第二高松園」に、同会所有の車両1台を寄贈した。車は6人乗りのワンボックスカーで、後部に車いす用の乗降リフトが付いている。第二高松園までの移送時には、同会職員の歯科衛生士2人が乗り込み、群馬県歯科衛生士会等から協力を得た口腔ケア用品などの支援物資を届けるとともに、入所者に対して口腔ケアを実施した。

同会が第二高松園へ寄贈した福祉車両は会が1994年に障害者歯科診療を始めたことを受けて、96年に群馬県と富岡市が患者送迎用に購入したものだ。2000年に介護保険制度が導入されて以降は、介護の在り方の見直し等、システムの整備により、同会による患者送迎の必要性が減少していた。

加えて、今年2月に日本財団の助成を得て訪問診療時活動用のヘルパー車軽自動車を購入したことで福祉車両の使用機

会はますます減っていく。

そこで同会は「有効活用できる場に提供したい」と日本財団に相談。県と市の承諾を得た上で、東日本大震災で被災した第二高松園への寄贈を決めた。

同会の事務局には歯科衛生士3人が勤務しているため、車両移送時には事務局長で歯科衛生士の松本裕美氏と主任歯科衛生士の入山久美子氏の2人を現地に派遣した。

2人は「ピンチ（震災）をチャンス（多くの支援）に変え、前向きに復興に取り組んでいきたいという施設の姿勢に心打たれました。車を届けただけではなく、口腔ケアをさせていただいたことで歯科衛生士としての役割も果たせました」と話す。

また、峯岸会長はこのたびの大震災に対して何か力添えができればよいと思っていました。私どもの所有する患者送迎用の車が第二高松園で使っていただけというところで、わずかではありますがお役に立てたのではと喜んでおります」と話している。

富岡甘楽歯科医師会から第二高松園に贈られた福祉車両は、同会の希望通り、早速多くの利用者に活用されている。

東日本大震災 情報掲示板

被災歯科関係者の方へ

生士2人、歯科助手1人
勤務地：山口歯科クリニック・茨城県筑西市嘉家佐和1924-1、ホワイトエッセンスデンタル

関わる手数料は支給。原則週休2日（木・日曜日）
勤務時間：9時30分～18時30分
備考：年齢不問。面接時の交通費は全額支給

三井住友銀行東京公務部（店番096）（普）016752
みずほ銀行虎ノ門支店（店番046）（普）4130160
【名義】上記、いずれの銀行も「東日本大震災義捐金」